

<週報No. 2,841> 2,950 回例会

2018年4月27日(金)

■会長／八幡 一成 ■幹事／北川 和彦

◆司会＝大和眞史副SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません。

◆出席報告

本日	71.43%	15名欠席
前回訂正	88.89%	5名欠席
前々回訂正	86.67%	6名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.21 五味武嗣君

◆ニコニコボックス＝●八幡一成君、北川和彦＝山崎茂様  
 本日は楽しい話を期待しています。よろしくお願ひいたします。  
 ●三井章義君＝高齢のため運転免許証を返上しました。53年間、無事に運転することができ、感謝しております。  
 ●川村総一郎君＝本日は、プログラム委員が担当させていただきます。山崎茂館長様、講話よろしくお願ひ致します。  
 ●小島拓也君＝結婚記念日です。●五味武嗣君＝ラッキーナンバーにあたって

◆会長告知・八幡一成会長＝今日は「ロータリー文庫」についてご紹介したいと思います。「ロータリー文庫」は、日本ロータリー50周年記念事業のひとつとして、1970年(昭和45年)に設立された資料室です。ロータリー関係の文献や資料など約2万4千点が収集整備されています。場所は東京のJR浜松町駅から徒歩8分の所にあつてロータリアンの皆さんは自由に閲覧できます。コピーサービスも可能とのことですが、実際にそこまで足を運ぶのは難しいかと思ひます。

1999年に開設されたウェブサイト

(<http://www.rotary-bunko.gr.jp/index.htm>) の活用が現実的です。そのサイトを見ますと、ロータリー文庫に収集されている資料は、「ガバナー月信」「ロータリーの友」「地区大会の講演録」「先輩ロータリアンの小論文」「ロータリー関連の書籍」などで、古いものは1920年代の資料も収蔵されていることが分かります。

資料のデジタル化も進められていて、公開可能な資料はサイト上で閲覧やダウンロード可能になっています。現在サイト上に公開されている資料は全資料からみれば数パーセントくらいだと思いますが、ロータリーについ

て疑問があつたり知りたいことがあれば、この数パーセントの資料からでもかなり調べることができます。

ロータリーで使っている「service」という英語を日本語の「奉仕」と訳すことに疑問があり、このサイトで公開されている資料を調べて見ました。尼崎西RCの田中毅パストガバナーが2011年に書かれた「シェルドンの森」という文献に自分が納得の行く説明がありました。とても意義のあるサイトですがその文献に辿り着くまでにかなり時間が掛かりました。資料や文献のデジタル化を進めて、昨今流行りのAIを活用した検索を実装してもらえれば、さらに使い易くなりそうだと感じました。

このロータリー文庫の運営は、2013年時点では2人の常勤職員が資料の収集、整理、保管、ロータリアンの対応など日常業務を行い、9人の運営委員、2名の監査委員により運営されています。運営委員、監査委員は日本の各地区のパストガバナーから選出されています。

運営資金は各地区からのロータリー文庫運営協力金などによって賄われています。運営協力金は会員1人当たり年間300円で、皆さんの年会費の中からこの協力金を拠出しています。皆さんも是非このサイトにアクセスして、ロータリー文庫を活用してください。

◆幹事報告・北川和彦幹事＝本日は山崎様、よろしくお願ひします。

来週は法定休日です。

今回は5月11日で青少年奉仕委員会による、ボーイスカウト、ガールスカウトの活動報告です。ご参加ください。

◆ロータリー文庫について補足・三井章義君＝ロータリー文庫は、浜松町の駅の近くの黒龍芝公園ビル3階にあります。同じ階に、米山記念奨学会、4階はロータリーの友事務所。ロータリーの主な機関がまとまっているのでぜひ行ってみてください。

◆クラブフォーラム 片倉館 山崎茂館長様



二代目片倉兼太郎に扮した、片倉館の館長山崎茂です。片倉家は、明治六年に片倉市助が自宅の庭で10釜の座繰り製糸をはじめ、その後明治か

二代目片倉兼太郎に扮して登場

ら大正・昭和にかけて製糸業で大成功をおさめ、世間からは「片倉財閥」と言われるまでにのぼりつめた。



初代兼太郎には子供が無く、弟の佐一が二代目兼太郎となる。三代目は二代目の長男。現在五代目が康之さん。初代兼太郎は片倉製糸の素と言われ、二代目兼太郎は多角経営で発展させ、三代目兼太郎は富岡製糸の獲得に寄与した。麻雀も実は強かったらしい。片倉光治は繭の品質を見る目が素晴らしく、今井五介は片倉家の外務大臣と言われ機械の開発や技術の革新に尽力した。

片倉一家は「高い志を持ち・努力し・結束が固かった」と言われている。「高い志」とは祖先伝来の農業を中止しても、時世に順応し国富増進に資する事業、製糸業をやっていくという志のこと。「努力・結束が固い」とは、それぞれの持ち味を生かしたということ。

さらに片倉一家はとても儉約家で、漬物に醤油をかけて食べるなんてけしからん、小包の紐は再利用する、東京出張は2等車でなく、3等車に乗ったなどのエピソードが残る。東京からの帰りの汽車の窓から自社工場の煙突から出ている黒い煙を見て、「石炭ばかり使っていないか？」と電話をかけたそうです。

初代兼太郎の日々の実践を見てまとめられた家憲では、神仏を崇敬する、事業は国家的観念を本位とする、常に人の下風に立つ、雇い人を優遇し家族の一員のように接するなど、10の家憲を定めている。

片倉家が地域に残したのものとして、初代兼太郎が作った中部日本一つつじの名所・鶴峰公園、三代目兼太郎が作った懐古館（諏訪市美術館）、松本松南高校、二代目兼太郎が残した明道館と松商学園、靖国神社の鳥居と狛犬などが今なお残っている。

片倉館は二代目兼太郎が地域の人のために建設した。

大正11～12年、全行程8万kmにおよぶ海外視察旅行の際、ヨーロッパ各国の農村には充実した厚生施設が整っている事に感銘を受けた。特にドイツ領、カルルスバットにあった厚生施設に強い関心を持った。帰国後、日本にも地域住民のための施設を建設したいと一族に語り、同族の有志で上諏訪に片倉館が誕生。設計は、東京駅等を設計した辰野 金吾の弟子、森山松之助氏。

片倉館建設の目的は、「温泉」・「健康増進」・「娯楽」・「社交」・「文化の向上」であった。「目的、温泉」とは、お金持ちは熱海や伊豆の温泉へ当時に行けばよいが、そんなことはできない諏訪の村でも、温泉に入れるようにする事。「目的、健康増進」とは、大理石浴槽、彫刻、ステンドグラス、テラコッタ等非日常的な空間でリラックスしながら入浴し、深いお風呂で浴槽底にある那智の黒石による足つぼ効果も健康増進につなげる事。「目的、娯楽」とは、落語や手品・歌謡ショー等で楽しむこと。「目的、社交」とは、理屈抜き裸のつきあいの場を提供すること。「目的、文化の向上」とは、東郷平八郎の直筆など、数々の書画が飾られていること。式典や講演会、各種イベントにも活用できること。

片倉館は片倉家の想いや精神を今に伝える施設の中で、当時の設立目的を継承し、現存する唯一のものだ。今年で90年目を迎えるが、設立の目的は変わっていない。地域の皆さまや大勢の方々にご利用いただく事に存在意義がある。利用者の方に「また来たい！」と言ってもらえる片倉館を目指し努力してゆく。

◆今後の例会日程

5月4日	金	法定休日
5月11日	金	クラブフォーラム 卓話 (青年奉仕委員会)
5月18日	金	クラブフォーラム 卓話 (会長・幹事)
5月25日	金	ゴルフ例会